

## 2016 年度活動報告 CJP 授業：文章表現 B

西村 由美（関西学院大学日本語教育センター）

### 1. クラス概要

本授業は、中級から上級にわたる複数レベルの学習者を対象とした、週1コマ全14回のクラスである。受講者は10名であった。学生がすでに持っているながら、あまり表現する機会がなかったであろう、読書体験や創造力を活かして、物語を創作した。物語の筋を考え、日本語で表現する過程を通して、これまでと異なる日本語の言語活動を楽しみながら力を伸ばすことを目的としている。また、お互いの作品を読んで、感想を伝えるだけでなく、表現を学び自分の作品に取り入れることも目指した。学期末には成果発表として、気に入った作品の朗読、または紹介を行った。

### 2. 授業内容

授業では、次の3つのタイプの物語を書いた。①よく知られている物語を、主人公とは異なる視点から書く、②クラスで物語の登場人物と基本的な設定を決め、リレー形式で話を展開させて書く、③作品が公募されているテーマで書く。または、詩や歌なども含め、好きな形式で書く。①は、シンデレラなどを題材に、主人公以外の登場人物、例えばシンデレラの姉を新たな主人公として書くものである。まず、物語の典型的な構成を説明し、「初め・中前半・中後半・終わり」の4つのパートに分けて毎週1パートずつ各自が執筆を進めた。題材はグループで決め、それぞれが登場人物を選んだ。基本的には、授業の前半で、出された課題から全体で共有すべき表現を紹介し、関連する新たな表現と、構成・内容のチェックポイントを説明した。授業の後半は作品のシェア、教員の個別フィードバックの確認、その日の課題のブレインストーミングを行った。②は各自が登場人物を1人ずつ創作してクラスで共有し、物語の舞台（国と町の名前）も決めた後、①と同様に4つのパートにわけて書き進めた。全員が毎回書き進めたため、教員がそれぞれの物語の内容を要約し、学生はそれを参考に、自分が書いた物語を紹介した。日本語のレベルが異なっても、しっかり内容を共有することによって、クラス全員の創造力が刺激し合い、楽しんで書き進める力になることを期待したからである。

### 3. 成果と今後の課題

学生の創造力は予想を超えるものであり、特に課題②では、個別の物語がダイナミックに絡み合い、より大きな物語が形作られていった。それぞれが、自分のイメージを日本語で表現することを楽しみ、また他のクラスメートの表現からも学んでいた。創造力と日本語力をどのように組み合わせ、伸ばしていけるかを引き続き検討したい。